連載

京都千年天文学街道ツアー【3】

神楽岡コースを歩く～吉田山・真如堂・黒谷・京大

作花一志（京都情報大学院大学）

暑さも和らぎ京都天文史跡めぐり([1]、[2])を楽しむのにいい季節となりました。ご一緒に神楽岡コースを歩いてみませんか。

1．吉田山・吉田神社

京都大学の東側に位置する吉田山は古くは、神楽岡と呼ばれていました。緑豊かな自然環境を維持し、歴史的意義を有する建造物や石碑も多数あります。南北 800m、東西 300m、最高点は 125m。この丘は今も優れた自然環境を維持していて、緑地保全地区に指定されています。吉田山緑地の中に入れば、郊外の森の中にいるような錯覚を起こすことでしょう。春は若葉の秋は紅葉を満喫でき、また頂上近くには三高寮歌「逍遥の歌」の冒頭である「紅萌ゆる丘の花」の歌碑（図１）があり、京大生をはじめ学生の散歩道として 100 年間親しまれてきています。

紅萌ゆる丘の花
早緑匂う岸の色
都の花に嘯けば
月こそかかれ吉田山
・・・・・・・

あなたはこの歌を御存じですか？
知っていれば、何番まで歌えますか？
筆者の世代にとっては懐かしいところです。学生時代には山頂からは西に京都市内が、東に大文字山がよく展望できました。まだ天の川が見える夜もあり、望遠鏡を持って行って観望会をしたこともあります。吉田山は、京大構内にあった最初の天文台の移転候補となったことがあったそうです。大正末期からの近代化による光害、東山通りの市電開通による振動公害を避けるため、天文台の移転が計画され候補地に挙げられたのですが、実際は、現在の花山天文台に移転が決まりました。

図 1　「紅萌ゆる丘の花」の歌碑

吉田山の大部分は、吉田神社の境内でもあり、その境内の中には、本宮を始めとして、神楽岡社・大元宮・山蔭神社・菓祖神社・竹中稲荷神社など数々の摂社・末社が祀られています。859 年に藤原山蔭が一門の氏神として奈良の春日大社の神を勧請したのに始まり、後に藤原氏全体の氏神として崇敬を受けるようになりました。鎌倉時代以降は、卜部氏（後の吉田家）が神職を相伝するようになり、吉田兼好もその一族です。江戸時代には幕府の保護の下、吉田家は全国の神社の神職の任免権（神道裁許状）などを持ち、神道界に大きな権威を持っていました。吉田神社の「節分祭」は、室町時代から続いている信仰と伝統を誇る一大行事で、約 50 万人もの参拝者で境内は埋め尽されます。

2．真如堂・黒谷

吉田山の東にある真如堂は、正式には鈴聲山真正極楽寺といい、比叡山延暦寺を本山とする天台宗のお寺です。創建は永観 2 年（984 年）ですが、応仁の乱で焼失して、市内各所を転々とし、元禄時代に現在の地に戻ってきました。紅葉の名所として有名で特に三重塔は見事です。

真如堂では、晴明紋の入ったお札も配られていて、そのお札の由緒書には、次のような話が書かれています。

晴明が死んだとき不動明王が閻魔大王の宮殿に行き、「この者は寿命が来て死んだのではない。横死（不慮の死）であるから再び娑婆へ返してほしい。」と頼みました。閻魔大王は承知して晴明に、「これは私の秘印で、現世では横死から救い、来世では往生がかなうものである。この印はお前一人のために渡すのではないから、娑婆に持ち帰ったら、この印を施して人々を導け。」と言いました。晴明がこれを受け取るとたちまち蘇生して、懐中を見るとこの金印がありました。 晴明はこの後、八十五歳まで生き、生涯この印を人々に施し、死後、不動明王と蘇生の印は真如堂に納められました。

このいきさつが【閻魔大王蘇生金印傳】に書かれています。本堂近くで、晴明紋が描かれている絵馬（図 2）を探してみましょう。また寺の奥の墓地には渋川春海の貞享暦採用に協力した土御門 泰福(つちみかど やすとみ)をはじめ安倍家・土御門家・倉橋家など陰陽師の墓が多数あります。

真如堂の南隣に位置するのが金戒光明寺で、地元の人からは、「黒谷さん」と親しみを込めて呼ばれています。1175 年に浄土宗の開祖法然上人が比叡山から降りてきて、この地で念仏修行を始めたと言われています。境内には

図 2　晴明紋（五芒星）が描かれた絵馬

本尊を納めた阿弥陀堂、御影堂、御廟、文殊塔（三重塔）、経堂、山門、塔頭の西雲院などがあり、西雲院には、法然上人が腰掛けたと伝わる紫雲石が祀られています。一の谷の合戦で平敦盛を打ち取った熊谷直実は、法然上人に願いでて、この寺で出家しました。出家を願い出たときの逸話にちなんだ「鎧かけの松」や「兜池」が境内に残っていて、熊谷堂が池のほとりに建っています。

今年 NHK の大河ドラマに登場する幕末の京都守護職の駐屯地であり、松平容保と近藤勇が会見した場としても有名で、会津藩藩士の墓もあります。また浅井三姉妹の末妹で徳川秀忠正室となったお江の供養塔もあります。

3．京大現代天文学の始まり

明治 30 年（1897 年）京都にも帝国大学が設立され、近代科学の研究が始まりました。京都における天文学研究の創設者である新城新蔵（1873～1938）は、東京帝国大学理科大学物理学科を卒業後、京都帝国大学理科大学物理学科に赴任、ドイツのゲッチンゲン大学への留学を経て、1907 年には理学部物理学科第 4 講座教授に就任しました。これが京都における現代天文学の始まりです。

1910 年に建設された当時の京大天文台で、

東大路通り沿いに小ドーム（図 3）が立っていて、その中にはザートリウス 18cm 屈折望遠鏡が設置されていました。1921 年に京大宇宙物理学科を新設。天体物理学、観測天文学を紹介、教授するとともに、東洋天文学史を創始し、京大宇宙物理学研究の基礎を築きました。その後、1929 年から 1933 年には第 8 代京都帝国大学総長を務め、その胸像が時計台の東に建っています。

図 3　京大天文台（東大路通り沿いの小ドーム）

新城が教授を務めていた当時、宇宙物理学教室と天文台は、現在の総合博物館の南にありました。また、時計台西側の現在も残るレンガ造りの建物は、物理学科数学科教室でした。1914 年（大正 3 年）頃の京都大学の本部構内にはまだ時計台は建てられていませんでした。大正末には時計台が建設され、その西北、小ドームの隣に宇宙物理学教室の建物が新築されます。図 4 は京大天文台から東に向かって撮られたもの、時計台も写っている貴重な写真です。現在この地には「皇攘堂」という何ともいかめしい名の建物がありますが、その中はほとんどだれも知らないようです。総合博物館の南で、筆者もウン十年もこのあたりを通っているはずですが、ほんの最近になって宇宙物理学教室の富田良雄氏[3]から聞いてその存在を知りました。そのころ京大天文台では一般市民向けの天体観望会も行われていました（図 5）。

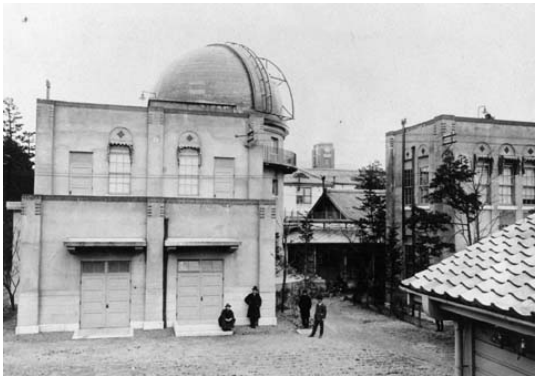

図 4　京大天文台と時計台

図 5　一般市民向けの天体観望会

その後、天文台は 1929 年に建設された花山天文台として移転しました。ザートリウス屈折鏡も御年 100 歳を超えても現役で働いています。宇宙物理学教室は 1939 年に北部構内に移転し、現在の建物は 1980 年に建て替えられたものです。

新城の後任は観測面では山本一清（1889−1959）が、理論面では荒木俊馬（1897−1978）

が当たりました。山本は 1920 年に天文同好会（現在の東亜天文学会）を結成しました。退職後も大津市自宅で活動を続け、生涯を通じて天文学者とアマチュア天文家の橋渡しをし、わが国のアマチュア天文学が世界トップレベルとなった基礎を作りました。またアインシュタイン京大来学時（1922 年）に荒木が学生代表としてドイツ語で挨拶を行ったことは有名です。ドイツ留学して帰国後、京都大学教授に就任。京大で初めて量子力学の特別講義を行いました。その受講生の中に湯川・朝永両名がいたそうです。変光星、白色矮星、膨張大気の理論的研究を行い、専門書から一般普及書まで非常に多くの著書があります。後に京都産業大学を創立し、初代学長を務めました。

この小文は花山星空ネットワークの季刊誌「あすとろん」[4]にも記載されています。なお、図 6 には今後の京都千年天文学街道ツアーの予定が示されています。

文　献

[1]作花一志『天文教育』Vol.25,No.1,p27,2013
[2]作花一志『天文教育』Vol.25,No.2,p15,2013
[3]冨田良雄
http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/~tomita/vmuseum/vmuseum.html
[4]作花一志『あすとろん』No22, p26, 2013

作花一志

コース	日程	天文博士	ガイド	集合場所 ・ アクセス ・ 行程
信長と天変	10/12	作花	坂田	【集合場所】叡山電鉄出町柳駅 改札口【行程】出町柳駅→幸神社→本満寺→阿弥陀寺→相国寺→相国寺墓地→京都御苑（解散）
明月記	9/29 11/2	作花 作花	有賀 坂田	【集合場所】晴明神社【アクセス】JR 京都駅より京都市バス乗場(烏丸中央口) B1より9系統に乗車（約30分)「一条戻橋・晴明神社前」下車徒歩2分 【行程】晴明神社（集合)→一条戻橋→冷泉家（外観見学)→京都御苑（解散）
神楽岡 4D	10/26	-	梅本	【集合場所】真如堂 正面門前【アクセス】JR 京都駅より、京都市バス乗場（烏丸中央口）A1より5系統に乗車（約40分)「真如堂前」下車 徒歩8分【行程】真如堂（集合)→金戒光明寺→吉田神社→京大時計台→休憩1時間 →アストロトーク（終了後解散）
神楽岡	12/1	-	有賀	【集合場所】及び【アクセス】神楽岡4Dと同じ【行程】真如堂（集合)→金戒光明寺→吉田神社→京大時計台（解散）
花山天文台	11/30	野上	梅本	【集合場所】京都市営地下鉄東西線 御陵駅 改札口【行程】地下鉄御陵駅（集合)→元慶寺→ハイキング→京大花山天文台(見学後解散）
花山もみじ	11/23	北井	坂田	【集合場所】京都市営地下鉄東西線 蹴上駅 1番出入り口（地上)【行程】地下鉄蹴上駅（集合)→タクシー移動→花山天文台→タクシー移動→清閑寺 →清水寺（解散）
暦合戦	10/14 12/21	小山 小山	坂田 坂田	【集合場所】JR 西大路駅 改札口【行程】JR西大路駅（集合)→若一神社→梅林寺・円光寺→タクシー移動→大将軍八神社（見学後解散）

出発13:00(受付開始12:45) 終了時刻16:00　　※ 天文博士及びガイドは変更する場合があります
神楽岡4D は出発10:30(受付開始10:10) 終了時刻15:30(途中休憩 12:30～13:30)

図 6　今度の予定　詳しくは　http://www.tenmon.org/　（『京都千年天文学街道』で検索）